

なかやまのかんきょうをまもるかい

## 中山の環境を守る会（松本市）

・組織の活動面積 A= 47.69 ha	組織形態	共同活動 ■	中山間直接支払 □	向上活動 □
・組織の構成員数 約 200 人	取組開始年度	平成19年～	—	—

構成員	農家、各町会、農業委員会、JA松本ハイランド中山支所、中山土地改良区、中山営農組合、各地区水利組合、中山公民館、中山地区有害鳥獣害対策協議会
-----	--

### 組織の概要

中山地区は、松本市の東南地区に位置しており、地区の大部分を農地が占めている。松本市中心市街地から約5kmの距離であるが山間部となっている。

農業は稲作を中心に野菜・花き等の栽培が行われ、最近では耕作放棄地の活用をし、そばの耕作が盛んに行われている。また、千石地区で作られている長芋は良質との評判で特に人気がある。

活動は水利組合が主体となり、町会等と協力しながら水路、ため池周辺の草刈やホタルの保護活動、鳥獣害防護柵の管理等を行っている。

## 山間部に位置する中山地区の保全管理活動

中山地区には6箇所のため池があり、それぞれ水系が異なるため、維持管理には大変な労力が必要となりますが、住民の大きな協力のもとに活動を実施しています。今回はその中の1つ『しゃごじ池』を紹介します。

### 上和泉地区『しゃごじ池』周辺の鳥獣害防護柵の整備

通称「しゃごじ池」は、中山・上和泉地区のかなり山奥にある、農業用水ため池である。山奥にあるため、昔から猪や鹿の出没によるため池への侵入等により、堤体の崩落などの心配に悩まされてきた。

今回、池の周辺を防護柵で囲い獣類の弊害を抑えるような対策を行った。



### 『しゃごじ池』周辺農地の荒廃と鳥獣害

しゃごじ池は戦後間もなく田んぼの水不足に悩まされていた海田の農家が力を合わせて人手で土を掘り築造した。その後有用な水利施設として改修工事を行い管理されている。

昭和を過ぎると池周辺の田畑が荒廃し鹿の生息地となり、山野草（かたくり、にりんそう、ひとりしずかなど）の群生地も荒らされ、池の水を飲みに来る鹿に堤体を崩されるなどの被害があり、住民は大変悩まされていた。

### 『しゃごじ池』と民話『和泉小太郎』

松本地方で語り継がれる民話の一つに「和泉小太郎」があり、鉢伏山の麓、中山の産ヶ坂で生まれ、母である犀竜の背中に乗って岩山を開き、湖だった松本平の水を押し流し広大な田に作り変えたという英雄伝説である。

そして、小太郎が産湯に浸かったといわれる産ヶ池が「しゃごじ池」といわれている。

農業用ため池としての機能だけでなく、地域に残る伝説とともに子供たちに関心を持ってもらい、後世に繋げていきたい。

